

白山ふるさと文学賞

第九回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年作文の部 優秀賞

人を助ける仕事につきたい

明光小学校六年

樋口 ひぐち

みこと

将来の夢のために私はこれからどうしたらいいのかを初めて真剣に考えました。私の将来の夢は、国際看護師になることです。その理由は、母が看護師で小さい時から興味を持っていたからです。そして国際看護師になりたいと思つた理由は三つあります。

一つ目は、母の職場を見に行つて感動したからです。看護師さんは患者さんに寄りそつて体のケアも心のケアもしていました。そんなことが出来るのは看護師さんならではだと思います。テキパキと動いて切り替えが早く周りの事にも目をむけられる看護師さんを目の前にして私はおどろきました。国際看護師は世界で活やくする看護師です。日本の看護師免許を取り、日本の病院で基礎を身に付けなければ国際看護師になりません。私は母たちの仕事ぶりを見て世界で活躍し、たくさんの人を笑顔にする、人を助けるすてきな仕事につきたいと思いました。仕事は知識も経験も豊富でないといけないという、難しい条件があります。世界では難病をわずらつて苦しんでいる人がいるという事を知つて国際看護師は、必要な人材だと私は思いました。患者さんは入院中、自分のしたい事を出来ないで不満がたまりコミュニケーションをしなくなるという事を母から聞いたことがあります。コミュニケーションは患者さんと看護師さんの一番の要だと思えます。母の職場では病室で看護師さんと患者さんがお話している所をひんばんに見かけます。ケアも大事だけどコミュニケーションも大事だと知りました。コミュニケーションは社会で活躍するときに必要になるので、母のようになれるよう普段から意識していこうと思いました。

二つ目の理由は、看護師の人数が減少しているを知つたからです。ある日、新聞を広げると医療従事者の人数が減少しているという記事を見ました。看護師は人の命をあずかる仕事で、小さなミスでもすると責任を取らないといけないというリスクがあるので人数が減少しています。そのような事態を少しでも軽減できるならば私はその一人になりたいと思えました。仕事で辛い時もあると思うけど、自分の今までの努力をふり返つてまたがんばろうと思えるような大人に私はなりたいです。でも、

目標として終わるのではなく行動に移せるようにもしたいです。私が五年生の時ある先生がいました。その先生はよくこの言葉を言います。「言葉だけではなく行動に移して、有言実行です。」私はこの言葉を大切に日々、行動しています。五年生の時に私はこの言葉に出合つていなければ自分は変わっていなかったと思います。五年生の夏休みの時、私は宿題をやり切れませんでした。でもその先生に有言実行という言葉を教わつて冬休みや休校中の宿題などを終わらせる事が出来ました。この時、私は言葉の力はすごいと思いました。おとなになつても、有言実行という言葉を大切にしていきたいと思います。看護師という仕事は日々、時間追われます。でも自分で決めた事はやり切るといふ事を将来の私に言いたいです。

三つ目の理由は、おしごと体験での、看護師の仕事を実現したいと思つたからです。おしごと体験では実際に働いている看護師さんに仕事を教えてもらい実践するという事をしてます。脈拍を測つたり傷の処置をしたり、大変良い経験になりました。患者さんと目の位置を合わせたり動作にも細かい工夫がありました。看護師さんならではの優しさで、この仕事につきたいと思う気持ちが一層、強くなりました。本物の優しさを持つ看護師さんはだんだん私のあこがれる存在となりました。人を助けることはすぐにはできないことではないし、難しいことだと私は感じています。でも助けて「ありがとう」という言葉をもらつと、助けてあげてよかったと思う事があります。私は人に感謝されて嫌な事は無いので人を助ける仕事につきたいと思いました。自分の可能性を信じて、世界で活躍できるようにこれからも全力で勉強しようと思います。

私はまだ十一年しか生きていませんが気づいたことがあります。それは、「人は支える人が居ないと生き残れない。」という事です。今まで生きてきて、そう思う事が多数ありました。だからこそ私はその支える人になつて、たくさんの人を笑顔にする国際看護師になりたいと強く思いました。そのために英語もがんばりたいです。